

進む学習者： 自然発生的ランゲージ グの声

第二報告（発表者：藤本かおる 武蔵野大学）

自然発生的自律的統合的言語能力の生成： 学習者のインタビューによる事例

インタビュー時期：2022年11月、2023年2月

インタビュー方法：半構造化インタビュー

インタビュー案作成：湯山トミ子、藤本かおる

1時間ほどのZoomでのオンラインインタビュー

対象者：都内私立大学3年生（当時）女子学生

中国語学習と英語学習、の相互の影響をざっくばらんに話してもらおう

自然発生的自律的統合的言語能力の生成： 学習者のインタビューによる事例

中国語を学ぶことで、英語の発音について気がついたことがある

【子音の発音】

これまでの英語の子音は“日本語っぽかった”

- 中国語学んで、子音を理解してから、これがもしかしたら正解なのかも

中国語を勉強したことによって英語の子音の音が日本語にないことを意識

- SHを日本語の「シ」にちっちゃい「ユ」みたいな発音で発音してたんですけど、なんかそれともまたちょっと違うよなって思って
- 発音を直された時に「あ、やっぱり違うな」というふうに感じた

自然発生的自律的統合的言語能力の生成： 学習者のインタビューによる事例

F：それで、例えば、英語の発音と日本語の発音も結構違うじゃない？ 中国語と英語の発音もまあまあ違うし、中国語と日本語の発音全然違うと思うんですけど、**中国語勉強することで、英語の発音について意識するようになったとか、あんまり変わらないとかありますか？**

S：それ考えたんですけど、でも**子音の発音は何となく中国語と英語は似てるなって気がして**

F：そうだね。

S：**日本語にはない発音だけど、近いなって感じることもあるので。**

F：子音で終わるしね。

S：子音の発音は、**中国語学び始めてから逆に、今までこうやって発音してたけどそれは日本語っぽくて、中国語学んで、子音を理解してから、これがもしかしたら正解なのかもっていうのはありました。**

自然発生的自律的統合的言語能力の生成： 学習者のインタビューによる事例

F：けっこう日本語に似てる音とか似てる意味の発音があったりして自分的には学びやすい言語であったのかなっていう気はしますって言ってたんだけど、そこで例えばずっと学んできた外国語と言えば英語だけれども、**日本語と中国語じゃなくて中国語と英語って考えた時に、中国語と英語って似てるなとか、ここ全然違うなっていう関係とかいう感想はありますか。**

S：英語と中国語。うーん。

F：なけりやないでいいんだよね。でも、ちょっとこの音似てるなとか。

S：でも**日本語にない発音があるので、発音っていう部分、子音の部分は英語とつながるものはあるのかなっていうふうには思います。SHとか「シュ」っていう音とかは似てるのかなっていう感じはします。**

F：例えば中国語を勉強したことによってそういう英語の子音の音も、これって日本語にないよなみたいなのを意識したっていうことはある？

S：はい。ありますね。それこそさっき言った**SHとかも日本語の「シ」にちっちゃい「ユ」みたいな発音で私としては発音してたんですけど、なんかそれともまたちょっと違うよなって思って。それはやっぱり中国語を学んで、授業でっていうよりは主にスピーチコンテストの方で発音を直された時に「あ、やっぱ違うな」っていうふうに感じたので、そこは英語と中国語が似てる部分ではあると思います。**

自然発生的自律的統合的言語能力の生成： 学習者のインタビューによる事例

クラス授業だと気がつかないことがある

- 先生の後を読んでとか、先生の後で発音してっていうのも全体でなので、自分の発音が合ってるのが合っていないのか微妙みたいなところがあります
- **本当に聞こえたままを言って、でもそれはちょっと友達とは違うよなっていうのは感じてた部分ではあるので**
- 日本語の、はひふへほ、の発音と、中国語のH（エイチ）の発音がまったく別物であることを、**スピーチコンテストのための個人指導でようやく理解できた**

自然発生的自律的統合的言語能力の生成： 学習者のインタビューによる事例

F：授業中だとそんなに個別に発音を直される機会ってたぶん全体、教室全体として直されるっていうところはあっても、自分の発音直されるっていうのはあんまりたぶん教室はないから、教室でみんなと勉強してるだけだったらそんなには意識してなかったって感じかね。

S：そうですね。**先生の後に読んでとか、先生の後に発音してっていうのも全体でなので、自分の発音が合ってるのか合っていないのか微妙**みたいなところがあります。**本当に聞こえたままを言って、でもそれはちょっと友達とは違うよ**なっていうのは感じてた部分ではあるので。

F：特別自分で、今まで中国語やってからすごく、この子音は難しいからちゃんと、もっと発音したいとか思うようなものとかありました？

S：ありますあります。**日本語の、はひふへほ、の発音と、中国語のH（エイチ）の発音がまったく別物だっていうのを、この間のスピーチコンテストで、先生に発音を直されてようやく理解できた**んですよ。1年のころにZoomで日本人の先生に教わった時は、全然は行とHの区別がついてなくて。

自然発生的自律的統合的言語能力の生成： 学習者のインタビューによる事例

英語の文法に影響されて中国語の文法が分かりやすかった、分かりにくかったということがある

- 最初に主語がきて、動詞がきて、最後に目的語がくるってような形なら**英語と同じだと思っていた**
- 文法の実際の授業に入って、制限の違いに大変混乱した
- 現在でも、並べ替えの問題とかあると戸惑ったり、間違ったり、時にはスルーしてしまう

自然発生的自律的統合的言語能力の生成： 学習者のインタビューによる事例

F：逆に文法で英語の文法に影響されて中国語の文法が分かりやすかった、分かりにくかったとか、語順が違うから、例えば「明日何々する」のは「明日」の語順が違うみたいな、混乱したところありました？

S：ありますね。けっこう初期段階なんですけど、やっぱり動詞の前に必ず起きた日付とか「月曜日」、「明日」とかっていうのをつけなきゃいけないっていうのはすごい意識するように言われてたんですけど、やっぱり英語の文法と違うので、日本語の文法とは違うよっていうふうな情報は先に入ってたんですよ。中国語と日本語が違うよっていうのは入ってたんですけど、でも「**最初に主語がきて、動詞がきて、最後に目的語がくるっというような形なら英語と同じじゃない？**」っていうふうに思ったので、**文法の実際の授業に入って「え、待って、これってこの制限あるんだ」**みたいなのは**すごい混乱した**し、今でもちょっと並べ替えの問題とかあると戸惑ったりとか間違ったりとかはスルーしちゃうと思います。

F：それは負の、やっぱり英語を勉強してるのが長いし、逆に英語と中国語文法に出るよねみたいな意識もあるから、そういうところが何か影響しちゃうってことだね。

S：そうですね。

自然発生的自律的統合的言語能力の生成： 学習者のインタビューによる事例

英語を利用して中国語を学ぶこと

● メリット

- 英語がある程度理解できて、中国語を学ぶ場合は**どちらのボキャブラリーも活性化される**
- 中国語でわからない単語が出てきたら、英語で意味を確認、英語もわからなかったら日本語で、そういうことから**2段階知識が増える**

● デメリット

- 文法は日本語で教わったほうが、**理解がスムーズ**
- **英語が苦手**という場合は、**最悪、全くついていけない**

自然発生的自律的統合的言語能力の生成： 学習者のインタビューによる事例

F：英語で中国語を勉強する利点って何だと思う？ なんかいいことある？

S：単純に頭使うので寝ないっていうのと。

F：逆に疲れて意識が朦朧とするっていうこともあるってことだね。

S：英語が苦手っていう子は、本当にどうしようもなくついていけないっていうデメリットはあると思います。英語がある程度理解できて、中国語を学んでなった場合は**すごく、どっちのボキャブラリーも活性化される**っていうか、中国語でわからない単語が出てきたら、今度英語で、そういう意味かって。英語もわかんなかったら英語を訳して、日本語で、そういうことか、で**2段階知識が増える**っていう感じですね。

自然発生的自律的統合的言語能力の生成： 学習者のインタビューによる事例

F：文法の理解についてはどう？ やっぱり日本語で教えてほしいなと思うかとか。

S：それはたしかに、**日本語で教わったほうが、理解がスムーズだな**とは思っています。2年生の時は、今の火曜日に授業してくださってる中国語母語話者の先生と、もう1人男の先生で、日本人の先生がいらっしゃって。私もそうなんですけど、クラス全体的にそっちの男の先生のほうが、文法の理解がわかりやすいよねって話はしたことがあって。なので、**日本語のほうがわかる**なとは思うんですけど。

F：でも、そこで、**英語も使えるよ**なとか、**英語のボキャブラリーも増えるな**、**みたいに思えると、日本語で勉強するだけじゃない、効果みたいなものもある**っていうことだね。

S：そうですね。

F：たださっき言ってくれたように、**英語ができないと、本当に地獄を見る**っていう。

S：地獄ですね。

自然発生的自律的統合的言語能力の生成： 学習者のインタビューによる事例

- 中学の時の英語の先生の教え方好き→英語が好きに
しかし、高校になっていわゆる試験や資格試験では点数が上がらず・・・
- 日本語教育に興味があって学科を選択
大学入学後 1 年次から中国語学習を始める
1 年生で中国語に興味を持つ→2 年生以降上のレベルのクラスに配置
- 中国語の授業で先生に中国語コンテストに出ないかと誘われ
全国大会で優秀賞を受賞！

自然発生的自律的統合的言語能力の生成： 学習者のインタビューによる事例

中国語が楽しかったのは…

- 他学科の人と学んでいる中で、単純に先生の質問に答えられたのがうれしかった
- **結構日本語に似てる発音とか、似てる意味の単語とかがある**と思って、自分的には、**学びやすい言語ではあったのかな**

英語 英検2級程度

中国語 HSK4級、中国語検定3級

トライリンガル教育の目的（学部ポリシーから）

グローバル化とデジタル化により、多様な人々や多文化との関わりが日常化した現在を背景に・・・

日本人学生と外国人留学生がともに学びながら、欧米とアジアの2大経済圏を席卷する英語と中国語の高度な運用力と、グローバルな視点から問題発見・課題解決ができる力を習得

複数の言語を駆使しながら多様な文化を十分理解し拡大するグローバル市場で活躍できる人材を育成

・・・ざっくりとした目標・・・

トライリンガル教育の概要

1年から3年まで英語と中国語を週2回ずつ学ぶ

英語はコミュニケーション重視の科目と文法を押さえる科目に分かれている

中国語はそういう区別はない

1年生の時は**日本で発行されたテキスト**を使う（つまりは**日本語で中国語を学ぶ**）

2年生以上は**英語圏で発行されたテキスト**を使う（つまり**英語で中国語を学ぶ**）

1年次の中国語教師は日本語が堪能もしくは日本語母語話者

2年以上になると、クラスによって担当教員の日本語力が異なる

ゼミ指導教官からみたトライリンガル教育

【ゼミの個人面談から見えてくる学生の事情】

学生の多く（特に指定校推薦で入学した学生）は、英語学習がさほど得意ではなかったり、英語は好きだが成果を出していないため本学科を選ぶ学生が多い

1. そもそも学生の入学時の認識の甘さが語学学習に与える影響
2. 英語学習が得意な学生を想定したテキストを使い続けていることの問題点
→英語が得意な学生が英語を活用して中国語を学ぶ想定になっている

文化的コンテンツを語学学習にあまり利用できない

- 中国語エンタメは韓国語ほど若い学習者の興味を惹けない
 - K-pop好きで韓国語を自学自習している女子学生多し
 - 誰に強制されたわけでもないのに楽しく学んでいる（むしろ中国語よりよっぽど身を入れている・・・）
 - また、歌詞やセリフを聞き取ったり、SNSを読んだり投稿したり、現地に旅行に行ったりし、活用の場がある
- 留学生の多くは、アニメやマンガに限らず日本語のポップカルチャーが好きな人が多い
- ドラマの種類が多いので、学習のためにドラマを見ている人も多い

中国語学習に活かせていない共修環境

- 学科の半数は留学生、うち80%近くは中国語話者
- 中国語を使おうと思えば使える相手はいる
- 恥ずかしい？ めんどくさい？ そもそも留学生は入学時には日本語上級
- 中国語話者の日本語はどんどん自然になっていくが、中国語学習者の中国語は・・・



一定数の成功者

単位を取るためだけに勉強している大多数

一定数の脱落者

統合的言語能力の生成を促進するためには、
学習者の既習言語の習得度に応じた教育支援が必要